

「心の教育」学習資料集

小学校・中学年編

# 京の子どもが 明日へのびる

京都府教育委員会 制作



## とびらをあけて

よく考えてみるとふしぎだなあ  
わたしはどうして  
生まれてきたのだろう  
わたしはなんのために  
生きているのだろう

わたしはねがう  
家族<sup>かぞく</sup>友だちみんな元気で  
楽しくなかよくくらしたい

だけどまわりをながめてみると  
いいことばかりじゃないみたい

悲<sup>かな</sup>しいできごと  
こまったできごと  
まわりにいっぱいあふれている

わたしがいつもねがうこと  
みんなもきつとねがっている  
だれもがなかよく楽しく  
くらせるあした  
そんなあしたになればいい

さああけよう

「明日<sup>あす</sup>へのとびら」  
ひとり一人のねがいをこめて





きょう  
京の子ども  
あす  
明日へのとびら

小学校・中学年編<sup>へん</sup>



# 目次

## 第一部

1	そうじする	梶田真章	4
2	すてきな人	山本兼一	8
3	分かち合う心	河合雅雄	12
4	ゆめをかなえるために	武田美保	16
5	生命はえいえんか?	岡田節人	20
6	いっしょにがんばってみようか	西本吉生	24
7	自分って、何だろう	鷺田清一	28
8	勇気。それはゆめのとびらを開けるかぎ	佐渡裕	32
9	小学生のころ	本庶佑	36
10	大志をいだけ	松尾心空	40
11	「楽書」のすすめ ―書くということ―	石川九楊	44
12	ねごはごままでわがままか ―人はごままで動物か―	日高敏隆	48
13	植物とわたし ―北海道ですごした少年時代―	河野昭一	52
14	京都というところ	村井康彦	56
	心の広場		60
	府民ほっとメッセージ(1)		61

## 第二部

1	正しいことを正しいと言えるクラスに	64
2	おじいちゃんのおそう式	66
3	友達っていいなあ	70
4	家族	74
5	係のこと	78
6	ぼ金活動	82
7	ジュニアバンドは楽しい	86
8	じょう化センター	90
9	守れ、天橋立	94
10	大好きふるさと	98
	心の広場	100
	府民ほっとメッセージ(2)	102
	京都府案内	

### このしりょう集は

あなたが人間として、幸せに生きていくために、何を  
たいせつにすればいいのか、どうすればいいのか、  
自分で考え、みんなで学び合うためのものです。



# 第一<sup>だいいち</sup>部<sup>ぶ</sup>

第一部は、京都<sup>きょうと</sup>にかかわりのある方々が、みなさんの生き方をおうえんするた  
めに書かれた文をのせたページです。

\*人間として生きていくうえで考えたい大事<sup>だいじ</sup>なテーマが集め<sup>あつ</sup>られています。

第一部のあとは「府民<sup>ふみん</sup>ほっとメッセージ」のページです。  
みなさんを見守<sup>みまも</sup>り、はげますためにとけられた府民のみなさんの  
声をしようかいています。



# 1 そうじする

梶田 真章

そうじを毎日していますか。一週間に一度くらいはそうじをしていますか。一か月に一度くらいですか。それとも一年に一回大そうじをするだけですか。

そうじはだれのためにするのでしょうか。自分のためでしょうか、周りの人のためでしょうか、それともみんなのためにするのでしょうか。

そうじをしてもすぐにまたよごれてしまうから、そうじをしてもむだだと思ってそうじをしないでいると、どんどんよごれていって、そうじをするのがもつといやになっていきますね。今日できることを明日にのばすと、また次の日にのばすということになって、なまけるくせがついてしまいます。そんなによごれていなくても毎日そうじをしていけば、そうじをすることが毎日の生活の一部になって、そうじするのがそんなにいやでなくなっていくきます。そうじをすることで、毎日くりかえすことのたいせつさを学んでいくことができると思います。





生きていくときには、今までとはちがった新しいことをしていくこともたいせつですが、ほかの生き物のくらしを見ているとわかるとおり、生き物のくらしの根本は毎日同じことのくりかえしです。顔をあらう、歯をみがく、ごはんを食べる、勉強することと同じようにそうじすることを毎日の決まりにすると、そうじすることがいやでなくなってきた、そうじすることが気持ちよくなってくるのです。

学校のそうじはみんなが使う場所をきれいにすることですから、おたがいが気持ちよくすごすのにたいせつです。みんながそうじするときには、わたしはほうきではなく係、ぼくはぞうきんでふく係、わたしははたき、わたしはちりとり、わたしはごみ箱のごみをすてにいく係というように、そ

れぞれがうまくやくわりをもってはたらかなければなりません。チームワークが大事ですね。  
ひとり一人がやるべき仕事をすれば、終わったときには部屋がきれいになって、みんなが気持ちよくすごすことができます。もしだれかがうまくできないときには、周りの人が手伝って助けましょう。地いき社会や国も同じようにみんなで助け合っていくためにあるのです。みんなですうじをすることは、みんなで社会をつくっていく第一歩だと思います。

周りの人にやさしい心で、やさしいまなごしを向け、おだやかな顔をして、あたたかいことばをかけ、こまっているときはからだを使って助け、こまっていなくてもお手伝いするなど、お金を使わなくても自分の心や行いで、周りの





人に喜んでももらえることはいくらでもあります。

そうじするのもそれと同じように、場所をきれいにするだけで、周りの人に喜んでもらえる行いですね。家や学校のほかにもそうじする場所があります。例えば、家の前の道路がよごれているなど思ったときには、自分でそうじしてみましよう。ご近所の人たちに喜んでもらえて、家族以外の人とも今よりもっと仲よくなれるかもしれません。

そうじすることは自分のためにもなり、周りの人のためにもなり、地いきの人にも喜んでもらえる行いであると思います。

今までそうじするのがきらいだった人は、ほうき、ぞうきん、はたき、ちりとりなどのそうじ道具を持つ前に、自分の身の周りをいつもきちんと整頓しておくことから始めてみませんか。

## 2 すてきな人

山本 兼一  
やまもと けんいち

世の中には、いろいろな人がいます。

やさしい人、こわい人、明るい人、暗い人、おこりっぽい人、わがままな人……。

大人でも、自分かってな人や、わがままな人、他人にめいわくをかける人がいます。ぎやくに、やさしくてすてきな人もいます。

あなたは、どんな人になりたいですか？

わたしは、すてきな人になりたいと思っています。でも、これが案外むずかしくて、いつも反省ばかりしています。

どんな人が、すてきなのでしょうか？

長い間ざっしの記者をしていたので、わたしは、いろいろな人に話を聞きに行ったことがありません。

あるとき、名医だとひょうばんの九州のお医者さんに、会いに行くことになりました。





「午前三時に来てください。」  
お医者さんは、電話で言いました。  
夜中の三時に来いなんて、じょうしきは  
ずれもいいところですよ。わたしは、なんて自  
分かってで、わがままな人だろうと、ちよっ  
とはらが立ちました。

むこうがそう言うのだから、しかたあり  
ません。カメラマンといっしょに飛行機に  
乗って、九州のその町に行き、ホテルで少  
しねむり、真夜中に起きて、お医者さんの  
いる病院に行きました。



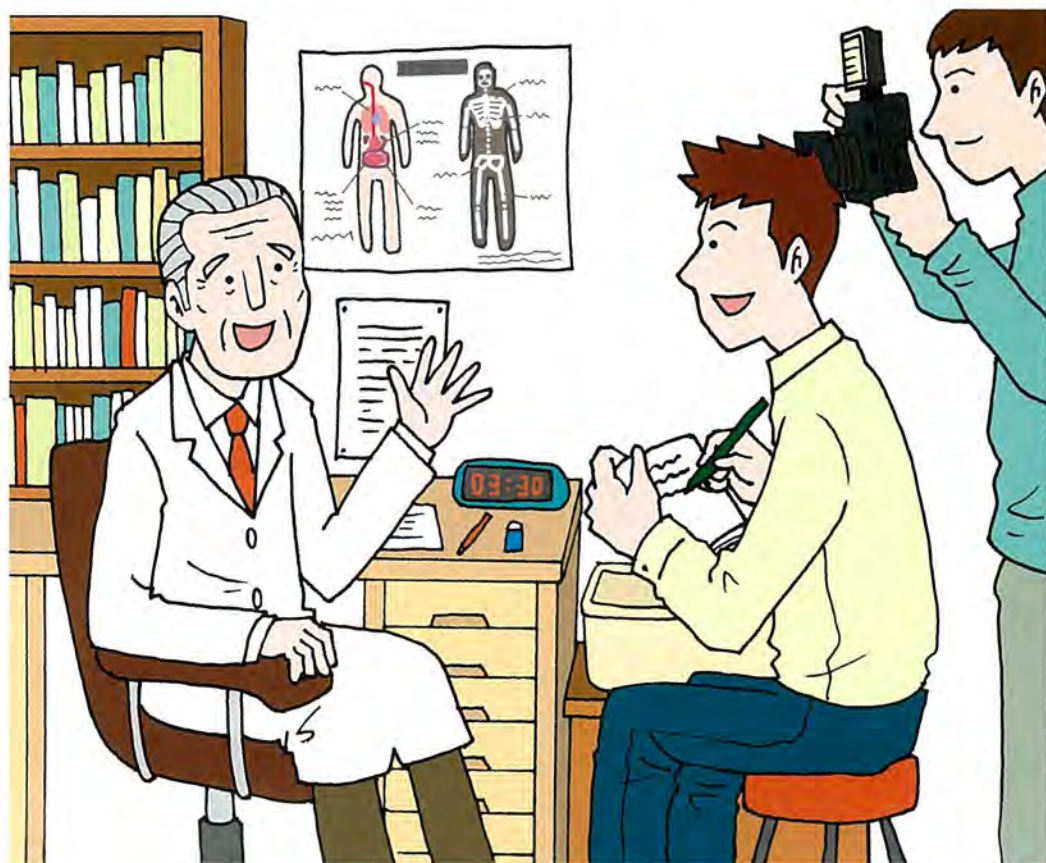
行っておどろきました。

お医者さんは、わがままでも、自分  
かっつてもありませんでした。

そのお医者さんは、八十才に近いお  
じいさんでしたが、毎日、朝の九時か  
らしんさつを始め、夜の十時まで、治  
りようや病院の仕事をしています。

「それから、午前三時まで、病気の  
治りよう方法を研究するんです。」

お医者さんは、にこにこ笑ってそう  
言いました。むずかしい病気を治そう  
と思つたら、お医者さんだつてたくさ  
ん勉強しなければなりません。それは、  
とてもたいせつな時間で、あとまわし  
になんかできないのです。ふつうのお





客きやくさんに会うのは、そのあとです。

お医者さんは、朝の五時に、病院のとなりにある家に帰り、お風呂に入ってご飯はんを食べます。それからねて、また九時に起きおきてしんさつをします。ねむるのは、毎日三時間だけ。そんな生活を、もう何十年も続つづけているのです。

「自分かつてなかつただと思つていました。失礼しつれいしました。」

わたしは、正直にあやまりました。

世よの中には、自分の楽しみや生活をあとまわしにして、他人たにんのためにがんばっている人がいます。

そういう人は、とてもすてきです。

ほかの人のために、一生けん命めい何かをする人こそ、すてきな人だとわたしは思います。あなたの周まわりにも、きっとすてきな人がいるはずですよ。

### 3 分かち合う心

ニホンザルの群れ社会では、子どもがおいしい物ものを持ってもいると、強いボスザルが子どもをいじめてそれをうばい取ると、といわれています。しかし、じっさいにはそういうことはなく、ボスザルの権威けんいを強調きょうちようするために作られた話です。どんなに強いおすであれ母親であれ、子どもから食べ物を「うばい取る」ということはありません。おいしい食べ物は、だれもがほしい。でも、いつも強い者ものがひとりじめしたりうばい合っているのは、社会のちつじよがたまた

河合 雅雄  
かわい まさを



▲こうじま みやざきけん幸島(宮崎県)のサルは、イモをあらって食べる



▲年をとったサルは、なかま仲間にたいせつにされる



れません。なんらかのルールが必要ひつようです。ニホンザルなどは、手に入れた者の所有権しよゆうけんを  
 みとめる、というルールができています。

チンパンジーはもっといいルールを作りました。それは一人ひとりが食べ物をどくせんしな  
 いで、ほかの者にも分けあたえるということです。手を差し出してのおちようだいや、  
 物ほしそうな目で相手あいての目をじっと見つめるなどの“物ごい行動こうどう”をします。人間と同  
 じですね。こうしてねだられると、たいていの場合、持っている物を分けてやります。  
 いちばん強いおすでも、めすが持っている食べ物を力ずくでうばうようなことをせず、  
 やはりおちようだいをしてもらいます。

やりたくない相手にはどうするか。野生チンパンジーの研究けんきゆうの創始者そうししやの一人ジェーン  
 ハグドールさんが、おもしろい観察かんさつをしています。きらいな相手にはバナナを少ししか  
 やらない、もっときらいな相手には皮かわだけやるのです。あたえるほうともらうほうの両りやう  
 ほうの気持ちきもちをそうぞうして、思わず笑わらってしまいました。

チンパンジーは狩りかをします。肉は大好物たいこうぶつです。たいていの場合、肉は集団しゅうだんの全員ぜんいんに  
 分けられます。おいしい物はだれもほしい。取り合いになると強い者勝かちになり、けが  
 をする者も出てくるでしょう。物をめぐっての争あらそいをさけるために、チンパンジーの長



▲チンパンジーのめすがおすからサトウキビをもらっている



▲肉を分けあっている



進化しんかの歴史れきしの中で、分配行動ぶんぱいこうどうの遺伝子いでんしがDNAディーエヌイーの中に組みこまれたのです。

人間は霊長類れいちやうるいの一種いっしゆです。サル類から進化してたんじょうした人間は、物を分配する  
という遺伝子を引きついできました。物を分かち合うという心は、ちつじよのある温か  
い社会をつくるためにたいへんたいせつです。持てる者は持たない人を助けるとい  
風ふうは、日本の社会でも大事だいじにされてきました。しかし今は、その美うつくしい伝統でんどうがうすれて  
きたのは残念ざんねんです。

人間のすぐれた所ところは、物の分配の精神せいしんをもう一歩高め、新たな世界せかいをつくり出したこ  
とです。それは心を分かち合う、ということ。喜びよろこびをともし、悲しみかなみや心のいた  
みを分かち合い、いかりや苦しみくるしみを共有きやうゆうするという心は、人間だけがもっている美うつくしい  
心です。人間らしく生きたい、という言葉ことばをよく聞きます。では、「人間らしさとは何  
か」と問とわれると、わかっているよううで答こたえにくいですね。その一つは、「心を分かち  
合う」ということだと思おもいます。

※気風……心のもち方

## 4 ゆめをかなえるために

武田 美保

人間は生まれながらにして、強い人なんていません。最初さいしよからなんでも一人ひとりでできる人なんていません。ただ待まっているだけでゆめをかなえられた人もいません。スタートはだれもが真まつさらのじょうたいです。弱くて、たくさんのことができなくて、ゆめをもってもそれがかなうかどうかともわからない。そんなさらのところから、人はスタートするのです。それからは自分次第しだい。「こんな人にわたしはなりたい。」というゆめが少しでもえがくことができたならば、「そうなるためにまず自分は何からできるのか？」を考え、行動こうどうをとり、それと同じ数の分、わき起おこるいろんなかんじようと向き合むい、だめになりそうでも決けつしてあきらめずに、「考える、行動をとる、向き合むう」ことをやり続けつづけられた人が、初はじめてそのえんちよう線せん上じょうにゆめをとらえ、かなえられるのだと思います。

こんなふうに小さいころのわたしは自分のことを見つめていました。一つしうかい





しましよう。

わたしは、生まれて初めての習い事に水泳を選びました。小学校に上がる前に泳げるようになればいいなど、ようち園から始め、小学校二年生のときに「シンクロナイズドスイミング」というきょうぎに転向しました。シンクロを始めたばかりのわたしは、できないことだらけ。そしてしんどいことも苦手で、いつも「今日はもうできない……。」と弱音をはいてしまう子どもでした。でも、無理だとあきらめてしまったそのすぐ後は、とても悲しい気持ちになったのです。悲しいというより、かんたんにしんどさに負け、がんばることをやめて、それを周りの友達にばれないようにごまかしている自分を自分の中に見つけてしまって、はずかしい気持ちとくやしい気持ちでいっぱいになりました。こんな気持ちになるのはやっぱり苦しいです。

ここでたいせつなの、「はずかしくてくやしい気持ちをもった自分」が今ここにいるという自覚をもつことなんです。この自覚がないと、ほんとうは苦しい気持ちのはずなのに、それを見すごすうちに何も感じない人になっていってしまいます。自分にうそをついているのですから、心が健康なはずがありません。それに気づいたわたしは、こう思うようになれました。「こんなにはずかしくてくやしい気持ちになるのは、わたしが自分でまだやれる力が残っているのにさぼったことを知っているからだ。昨日より今日と、がんばる気持ちもち続ける時間を、一秒ずつでもふやせばこんなかんじようにならないはずだ。一秒ずつならできる。」と。

やめてしまうのは、いっしゅんだけ楽になります。でも、気持ちはずっと苦しいまま残ります。このことに気づくことができました。

「ここがげんかいかもしれない」と負けそうになったとき、次の行動にまよったとき、わたしが選ぶほうはいつもシンクロを始めたばかりのころに気づいた、自分なりのこの答え。自分との全戦全勝はむずかしいですが、三日で差し引きしてプラスだったらとてもうれしくて、また次の三日間、さらには明日が楽しみになってきます。そのしつかりとした積み重ねがゆめの実げんへとかならずつながります。うそのない自分には、自信





がもてます。こうしてオリンピックピックというゆめにちようせんすることができました。

そしてもう一つ、ゆめをかなえるために必要なことひつようがあります。両親りやうしん、兄弟ともだち、友達ともだち、先生、だれでもいいです。自分の心の内を話せる人をかみならず見つけることです。たくさんその人たちとお話をしましょう。苦しいときに言葉ことばで気持ちを外にはき出すだけです。すつきりすることもありません。それだけでなく、自分との向き合むいの結果けっか出た答えが、ほんとうに正しいかどうかを落おち着ついてたしかめることにもなります。お話をするうちにわからなかったことが整理せいりされて、ふとひらめくこともあったりします。わたしはほんとうにたくさんさんの時間つかを使って、たくさんさんのお話を父や母としました。会話の中で、心からおうえんしてくれていることもわかりました。自分が一人ひとりじゃないと知ること、弱い人間が強くなれるたいせつなことかもしれない。みなさんそれぞれのゆめに向かって歩み出しましょう。おうえんしています。そして、近いしよくらい「こんなふうにかないました！」とそつと教えてもらえることを楽しみにしています。

心からおうえんしてくれていることもわかりました。自分が一人ひとりじゃないと知ること、弱い人間が強くなれるたいせつなことかもしれない。みなさんそれぞれのゆめに向かって歩み出しましょう。おうえんしています。そして、近いしよくらい「こんなふうにかないました！」とそつと教えてもらえることを楽しみにしています。

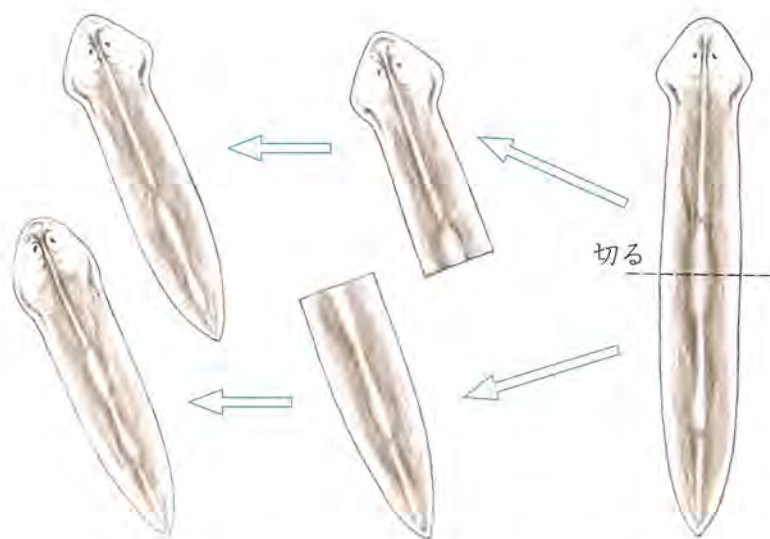
## 5 生命いのちはえいえんか？

からだを真まつ二つにちよん切つても平気へいきで生きていける動物どうぶつがあります。半分に切られたからだからだが、そのまま、つまり半分の大きさでそのまま生き続けるつづるのではありません。半分のからだは、いつのまにやら、もとと同じ大きさと同じ形にまでなるのです。つまり、真まつ二つに横よこ切りにぎされると、からだの後半分うしろからは、今やなくなつた頭あたまができてきます。もう一方つまり前半分（頭は残のこつてついていきます。）からは、しっぽしっぽができてきます。ですから、最後さいごには、もとと全く同じ動物どうぶつが二ひき、めでたくできてくることになります。



岡田節人おかだ ときんど





これは、めざましい<sup>せいめいりよく</sup>生命力です。こんなすごい生命力は残念ながら、われわれ人間にはありませんが、この地球<sup>きゅうじゅう</sup>上に生息<sup>せいそく</sup>している生き物<sup>いきもの</sup>たちの、実に多くがこんなすごいことをやれるのです。

例えば、プラナリア（ウズムシともよばれます。）という、ふつうは一センチメートルか二センチメートルの長さの茶色っぽい色をした水生の動物がいます。この動物は、きれいで、すきとおった水の小川の石のうらなどで見つけられます。京都の東山<sup>きょうと</sup>や北山<sup>ひがしやま</sup>の小川には今もすんでいます。

このプラナリアをとってきて、よく切れるナイフで二つに切ると、やがて二ひきになってきます。四つに切ると四ひきに、さらに八つに切ると八ひきになります。どこまで小さくきざんでも、それぞれの切れはしは一びきへと育つ<sup>そだ</sup>ことができるのです。まるで不<sup>ふ</sup>

死身（切っても切っても生命は終わることはない。）のようです。

しかし、こんな不死身の生命力をもっているように見えるプラナリアも、実はとても弱々しい面があります。この動物をとってきて真つ二つに切らないでもペットボトルに入れていくしてみます。毎日毎日よく世話をしているといないとすぐに、ほんとうに死んでしまいます。

どんな世話をしてやればよいのでしょうか？ まず、食べ物をお腹をあたえなければなりません。この動物は、からだ小さいわりには、かなり大食いなのです。レバーとか、卵の黄身とかは大好きです。しかし、あたえたえさが残っていると、水がきたなくなり、プラナリアはすぐに死んでしまいます。

ですから、毎日のようにでも、水はかえてやらないといけません。水は、水道の水では「この水はイヤ。」といって死んでしまうこともよくあります。いど水が自然の水でかきましょう。



このような「不死身」の生き物は、自然には数多くいます。プラナリアでは生命は、いわばいつまでもえいえんに続くかのようです。しかし、そのようなすごい生命力をもっている生き物であっても、実はとても弱い面があり、水のごりのような、それがすんでいる周辺（かんきょう）の変化には、とてもとてもびんかんなのです。

からだを二つにちよん切っても生きている動物がいる、というこの話を読んで、セミやチョウチョウをつかまえて「どうせ、また生えてくるんだから。」とばかりに羽をむしりとったりなどぜったいにしてはいけません。セミやチョウチョウは、一度なくなるところが生えてくるプラナリアのようなうりよくはありません。たしかに、不死身の生き物はいろいろとそんざいしています。だからといって、生き物はほんとうに弱いものでもあり、すぐにこわれてしまうものでもありません。



## 6 いっしょにがんばってみようか

西本 吉生  
にしもと よしお



進一、いったい、何があったんだい？  
泣いてばかりではわからないよ。  
さあ、落ち着いて、お父さんに話してごらん。

そうか。となりの研ちゃんが、スーパーマーケットでカードを万引きしているところを見たんだね。それで、進一はどうしたのだ？ なるほど、おねがどきどきするばかりで、研ちゃんに「やめとけよ。」って言おうと思っても、言えなかつ



たってわけか。

それで、研ちゃんはどうなったの？ うーん。店員さんに見つかって、おくのほうへ連れて行かれたのか……。もう、泣くなよ。おまえのつらい気持ちはよくわかるよ。そのとき、勇気を出して、研ちゃんに声をかけていけば、このようなことにはならなかったのにと言うんだね。でもなかなか言えないよね。研ちゃんは六年生だし……。

よく話してくれた。もう、泣かなくなっていていいよ。実は、お父さんにも、子どもころにこんなことがあったんだよ。

そういえば、ちようどおまえと同じ四年生のときの話だ。学校の帰り道のことなんだが、その日は、お使いをたのまれていたので、少しでも早く帰ろうと急いでいたんだ。

ところが、神社のそばを通りかかったとき、広場から女の子の泣き声が聞こえてきた。不思議に思ったお父さんは、大きなすぎの木に身をかくしながら、中のようにすをのぞきこんだんだ。すると、同じクラスの三人の男子が、小さい女の子をかこんで、いじめているではないか。しかも、三人のうちの一人は、いちばんけんかが強く、いつもいばっているいたずらっ子。たたいている。つねってもいる。



向こう向きの三人はお父さんには気づかなかったが、こっちを向いて助けを求めている女の子とは、つい目が合ってしまった。女の子の目はうったえていた。「早く来て！」と。お父さんの心ぞうははちきれんばかりだった。「急いで助けてやらねば」という心と、『知らんふりをして早く家に帰れ』という心が戦っているのがわかった。見すててはだめだ。いや助けにいつても、反対にやられるだけだ。どうしよう、どうすればいいんだ……。

結局、お父さんは何もできなかった。何もできないうちに、三人は女の子をたたいたり、けったりして立ち去って



いった。この間、二、三分だっただろう。でも、そのときのお父さんにとっては、一時間にも二時間にも感<sup>かん</sup>じた。

三人がいなくなった後、お父さんは急いで女の子にかけより、服<sup>ふく</sup>についていたどろをはらってやった。それがせいっぱいだった。

家に帰るとなみだが出てきた。悲<sup>かな</sup>しくて、くやしくて、苦<sup>くる</sup>しかった。その後も、長い間、お父さんの心からはなれることはなかった。

そうすることが正しい、こうしなければならぬとわかっていても、なかなかできないものだ。人間なんて、そんなに強くないもの。でも、弱<sup>よわ</sup>いからこそ、少しでも強<sup>つよ</sup>くならうと努力<sup>どりき</sup>していくことが大<sup>たい</sup>事<sup>じ</sup>なんだろうね。どうや、進<sup>しん</sup>一<sup>いち</sup>、いっしょにがんばってみようか。

えっ、その女の子って、今どこにいるのかって？ うーん。案<sup>あん</sup>外<sup>がい</sup>、おまえの近くにいたりして……。

## 7 自分って、何だろう

「自分って、何だろう。」と犬やねこも考えるのだろうか。それはわからないけれど、人はなぜかならず、こういう問いに向き合わされる。

「自分って、何だろう。」と考えるとき、わたしたちが真っ先にさがすのは、ほかの人にはない、自分だけのとくちようだ。算数が強いとか、水泳が得意だとか、ピアノがひけるとか、歌がうまいとか。ときには、うそつきだとか、こわがりだとか、はずかしがりだとかいった、へこんだとくちようをまずは思いつく人もいるだろう。ともかく、周りの人とくらべて、自分にしかないものをさがすのだ。

でも、ちよつと考えればわかるのだけれども、算数が強い人は自分以外にもいくらでもいる。ピアノがひける人も、はずかしがりやの人

鷺田 清一  
わしだ きよかず



も、いっぱいいる。算数が強くて、水泳が得意で、ピアノがひけて、でもはずかしがりやの人も、いっぱいいる。これらのとくちようは自分だけがもつものではない。これらはほかの人ももっているもので、それらをいくら数え上げても、いつまでたっても「このわたし」にたどりつきはしない。そういうとくちようをもった人、そういうタイプの人として、分類ぶんるいされるだけだ。

「自分って、何だろう。」と自分に向かって問いを発はっしても、このように、答えはなかなか出てこない。

では、「このわたし」、ほかのだれとも取りかえることのできない「このわたし」とは、いったいだれなのだろう。「このわたし」というもののかげがえのなさは、いったいどこにあるのだろう。

そこで、考えを百八十度回ど転かいてんさせてみる。「このわたし」を自分のほうからではなく、他人たにんのほうから見てみる。

すると見えない「このわたし」のかたちはとたんにくつきりしてくる。わたしの親にとってわたしはぜったいに代かわりのきかないもので



ある、はずだ。仲よしのあの友達にとっても、わたしは代わりのきかないものにちがいない。しばらくれんらくが取れないと、どうしてたのと聞いてくれるから。わたしがいなくなったらひどく悲しんでくれるだろうから。たぶんたんにんの先生にとっても、わたしは代わりのきかないものだろう。いつも言うことを聞かないでこまらせているけれど、先生も心のどこかでいつも気にかけてくれてるはずだから。

「このわたし」は他人の心のあてさきとしてある。だれかがわたしのことを思ってくれているとき、そのとき「わたし」はある。わたしが友達をなぐったときでも、なみだをあふれさせてにらみ返すその友達の目に、「わたし」がうつっている。先生がわたしを本気で起こるときには、おこるその顔の中に、「わたし」ははっきりうつっている。短くはない人生のさい月をたっぷりくぐってきて今わたしは思うのだが、自分がこれまでやってきたこと、なしとげてきたこと、やれなかったことはあまりくつきりとよみがえってはこない。それよりも、あのおときだれそれに会って自分がそれまでとは大きく変わって……と



いうことばかりが、走馬灯※そうまどうのように心をよぎる。うれしい出会いも、いやな出会いもあった。初めは出会いとすら思わないような出会いもあった。けれど、そのだれかに会って自分が変わったことはたしかだ。人生というのは、たぶん一直線で進むものではない。だれかと出会い、その人と過ごす時間の中で、生き方、考え方、感じ方もそれまでとはぐいっと変わる。人生は、そのようにジグザグと折れ曲まがった形をしているのだろう。そのだれかはもちろん、本の中で出会った人であるかもしれない。

「自分って、何だろう。」そんな問いがこみ上げてきたとき、自分はいったいだれにとつての他人なのか、そういう視点してんからながめれば、問いはたぶんから回りせずに、たしかなかたちをとるはずだ。

※回り灯ろうともよばれ、灯ろうの内側うちがわにつつのかたちをしたわくを入れ、そこに切り絵をはってかけ絵のように見せる。火をとまずと、熱あつてくるくる回るようになっていく。

勇氣ゆうき。

それはゆめのとびらを開あけるかぎ

佐渡裕さど ゆたか



▲オーケストラの指揮ひっしやをする筆者

ぼくの仕事しごとはオーケストラの指揮しきしや者です。指揮しきしやぼうをかた手に、世界せかいじゅう中のオーケストラを指揮し、音楽をかなでています。みんなの知り合いで、指揮者を仕事にしている人ひとっているでしょうか？「うちのお父とうちゃん、指揮者」とか「となりのおじさんは指揮者だ。」とかって、あまり聞いたことないですよ。とてもめずらしい仕事かもしれないが、ぼくはこの指揮者という仕事に、みんなと同じ年ごろのときにあこがれて、小学校の卒業そつぎょう文集しゅうの「大人おとなになったら、何なにになりたいか」というページで、「ベルリンフィル（ドイツを代表だいひょうする世界一のオーケストラです。）の指揮者になる。」と書きました。



ぼくは小学生のとき、とてもリコーダーが得意とくいでした。いつもリコーダーをふいていて、じゅぎょうの間の休み時間にはテレビ番組のテーマソングをふいたりして、クラスの友達ともたちを喜ばせていました。ぼくのリコーダーに合わせて、みんなが歌を歌って、教室が明るく元気になりました。そんなすばらしい力をもっている音楽が、ぼくの一生の仕事しごとになったらうれしいなと思いました。ですからそれからは、ただただやりたい仕事、つまり音楽のために努力どりよくをしてきたと思います。努力といっても大好きだいすきなことですから、一度いちども苦しいくると思っただけはありません。だけど、勇気をふりしぼらなくてはならないでできごとは何度もありました。

一年のうち半分はヨーロッパで指揮しちをしていますから、言葉ことばが通じなくてなやんだり、長い旅行りょこうで体調たいちようがすぐれず、それでもえんそう会かいをしなければならなかったり、えんそう旅行りょこう先に荷物にもつがとどかなかつたりと、毎日のようにいろいろな問題もんだいは起おこります。大好きな音楽の仕事ですが、ときにはほかの人と音楽についての意見いけんが合わずに、言い合あいになることもあります。そんなときも「勇気を出して」「笑顔えがほで努つとめる」ようにしてきました。

みんなの生活の中でも同じように勇気があるときがあるはずです。じゅぎょうで手を



▲指揮をする筆者（兵庫芸術文化センター管弦楽団）

上げて意見を言うとき、目標の高さのとび箱をとぼうとするとき、とてもきんちようするはずです。でもやりたいと思うことを実践するためには、思い切って勇気をふりしぼり、最初の一步をふみ出さなければなりません。そう！ぼくが指揮者になったように、みんながそれぞれにやりたいと思うゆめを実げんするため自分で開けなくてはいけないとびらは、みんなの目の前にあり、そしてそのとびらを開くことができるのは、一人一人の勇氣なのです。ぼくは自分にさいのうがあるかどうかわかりません。ただぼくがもっていたのは、だれよりもこの「勇氣」だったと思います。そう考えると、みんなにとっても、問題があるときやこんなんがやって来たときこ

それが、実はゆめをかなえるとびらを開けるチャンスなのだと思っています。

とびらを開ける「勇気」というかぎを手に入れること、それはすぐ身近なところからスタートできるはずですよ！ 例えば、道ですれちがった近所のおばちゃんに「こんにちは！」と元気に言ってみる。これも勇気が必要なはずですよ。親切にしてくれた人に「ありがとう！」とかんしゃの気持ち伝える。これも勇気がいりますよね！ ぼくが今世界中のオーケストラを相手にふりしぼっている勇気も、みんなと同じで、とても身近なところからのスタートだったと思います。

ぼくはいちばん好きな音楽を、自分の一生の仕事にできたことをとてもほこりに思います。今日も世界のどこかの街の指揮台で、昔、クラスの友達をリコーダーで喜ばせたように、たくさんの人を音楽のすばらしい力で元気にさせています！ いっしょに勇気を出していきましょー！



## 9 小学生のころ

本庶 佑 ほんじよ たすく



みなさんは千円札せんげんさつの表おもてに印刷いんさつされている野口英世博士のぐちひでよはかせを知しっているでしょう。野口英世博士は一才半いちさいはんのとき、いろいろに落おちて左手ひだりてに大きなやけどを負おいました。十五才じゅうごさいのとき、しゅじゅつしゅじゅつによって左手ひだりてが動くうごくようになったことがきっかけで、医者いしやになろうと決心けっしんしました。左手ひだりての不自由ふじゆうなことを乗りこえるためにもう勉強べんきょうをして、二十才にじゅうさいで医師いし国家試験こっかしけんにこうかくしたあと、米国防務省べいこくぼくしやうのクフエラー研究所けんきゅうしよの所員しよいんとなり、伝せん病でんびやうの研究けんきゅうで人類じんるいに大きなこうけんをしました。しかし、黄熱病おうねつびやうの研究けんきゅうでガーナガーナ（アフリカ）にたいがい中に自分おれもこの伝せん病でんきにかんせんし、五十一才ごじゅういちさいでなくなりました。小学校時代じだいに、わたしは野口英世博士のぐちひでよはかせの伝記でんきを読み、すごく感動かんどうしたことを思い出します。自分おれにあたえられたこんなんを乗りこえようとする努力どりよくによって、人はこんなにするばらしいことができるのか、という思いです。ま

たなによりもわたしが強く感動したのは、野口英世博士のすさまじいじょう熱ねつです。人は何かをやるうとするときに、熱あつい心がたいせつなのだということを強く感じたのを思い出します。

大人おとなになってふたたび野口博士の伝記を読む機会きかいがありました。今度は野口英世のちがう面めんに気がつきました。野口英世はやけどで指ゆびがくつついてこんぼうのようになつた左手のせいで、「てんぼう、てんぼう。」とからかわれて、いじめられたそうです。野口博士があれほどまでにはつぶんして勉強しゅんがくに集中しゅんちゆうしたのは、このくやしさに打ち勝うち、なんとか自分がみとめられるような仕事しごとをしたいと思つたからです。野口英世博士の負まけん気がいじめを乗りこえて大きな仕事をさせたことになります。

いっぽうで、野口博士には弱い面があつたことも知







めてもそのことを考えていたように思います。そのようなじょう熱が急速に冷めたのは、次の大きな感動がおとずれたときです。

小学校の五年生のとき、夏の夜の校庭で理科クラブの先生のしどろによる天体観そくをさせていただいたときです。望遠鏡の中に見えた土星の輪の不思議なすがたに大きな感動をおぼえました。どうして地球の外に、こんなすばらしい天体があるのだろうか、そして地球はどうしてできたのか。空想がどこまでも広がり天文学の入門書を何さつか読んで、ますますその不思議にひきこまれました。いつかわたしのきょうみは医学から天文学にうつり、こんな不思議な世界、うちゅうの果てに何かがあるのか知りたいな、と思うようになりました。

小学校時代は自分がきょうみをもつことにどんどんふみこみ、せいっぱい自分の心をはばたかせてこられたのが楽しい思い出です。生きるということ、自分が自分の生きるかちを見いだすことにつきまします。さまざまなものにふれ、自分がどういったものに感動できるのか、楽しい旅をすることが重要だとわたしは思います。



## 大志をいだけ

まつお  
松尾 心空

昔のお話です。思いがけないじこで自ら動けなくなった父親が、小学校六年生とその弟に、とれたばかりの魚を市場にとどけるよう言いつけました。日ごろかわいがっているくり毛の馬に荷車をひかせて夜明け前に市場にとどくよう、深夜に出発したのですが、運悪く、どしやぶりの雨になり、ほそうのできていない道はどろぬまのようになって車輪がはまりこんでしまい、車は進めなくなりしました。二人の兄弟は、馬をむち打ち、その首を必死にたたきます。馬は、一歩でも前進しようとして口にあわをふきながらあがきます。しかし、車はびくともしません。とうとう馬は、その場にはいつくばってしまいました。

今まで、その首をたたきつづけていた兄弟が、ふと気づいて馬の目を見ると、そこにはなみだがいっぱいあふれていました。日ごろ、愛していた馬の必死の思いを見た兄弟は、思わず二人でその首にしがみついておいおい泣くのでした。ふりしきる雨の中に、



二人のなみだも止まることにな  
 かったのです。

これは、徳永直とくながすなおという人の『馬』  
 という物語ものがたりの一場面いちばめんです。ここに  
 は、当時のきびしい生活くわつどうと労働ろうどうに  
 まつわる、兄弟もといと物言ものいわぬ馬との  
 あせとなみだの感動かんどうてき的な心の通い  
 合いがあります。おそらく、そこ  
 には作者さくしゃ自身のまずしくきびしい  
 体験たいけんが反はんえいしているのでしょう。  
 まずしさはときに深い感動ふかをあた  
 えます。

ところで、わたしは戦時中せんじちゆう、兵  
 士しが学ぶ学校しこうにいましたが、食料しょくりょう  
 不足ぶそくで一日中おなかをすかせてい





ました。十日に一度、まんじゅうが二つ  
食たくに出ましたが、わたしはこっそり  
ぬのぶくろの中に入れておきました。夜  
になると、三日に上げずアメリカのばく  
げき機が来て、わたしたちは身を守るた  
めにぼうくうごうに入らなければなりま  
せんでした。そこではだれもいない、たつ  
た一人の世界です。そこで、あのまんじゅ  
うをぬのぶくろから取り出すのですが、  
かじって食べたのでは早くなくなります。  
より長く、よりていねいに味わうために、  
皮をなめ、あんをなめました。この体験  
があるので、食べ物をもつにする気持  
ちには決してなれません。「もったいな  
い。」という心が「食べ物のとぼしさ」





▲クラーク博士ぞう

うに続<sup>つ</sup>いてい<sup>る</sup>のです。

「それは、金を得<sup>え</sup>るためではない。けんりよくを得るためでもない。また、むなしめいよを手にするためでもない。大志をいだけ。それは、人の人たる道を歩むためのすべての修養<sup>しゅうよう</sup>をなしとげるために。」

と<sup>い</sup>うのです。労働<sup>らうどう</sup>をとうとび、まずしきやとぼしきにたえる心を養<sup>やしな</sup>うためにも、大志の方向<sup>ほうこう</sup>を見失<sup>みうしな</sup>わないように生きることがたいせつです。

を通じて育<sup>そだ</sup>っていったのです。

明治初年<sup>めいじしねん</sup>、札幌農学校<sup>さっぽろのうがっこう</sup>（今の北海道大学<sup>かいどう</sup>）に初代<sup>しよだい</sup>の教頭としてふにんした、クラーク博士<sup>はかせ</sup>が、その母国へ帰るときに、「少年<sup>せうねん</sup>よ大志<sup>たいし</sup>をいだけ。」と言ったのは、とても有名<sup>ゆうめい</sup>な話です。

実は<sup>じつ</sup>、クラーク博士の言葉<sup>ことば</sup>は、「大志をいだけ」のあとに次<sup>つぎ</sup>のよ

# 「楽書」のすすめ — 書くということ —

石川 九楊

(编者注：漢字に親しんでもらうために、すべ  
ての漢字にふりがなをつけています。)

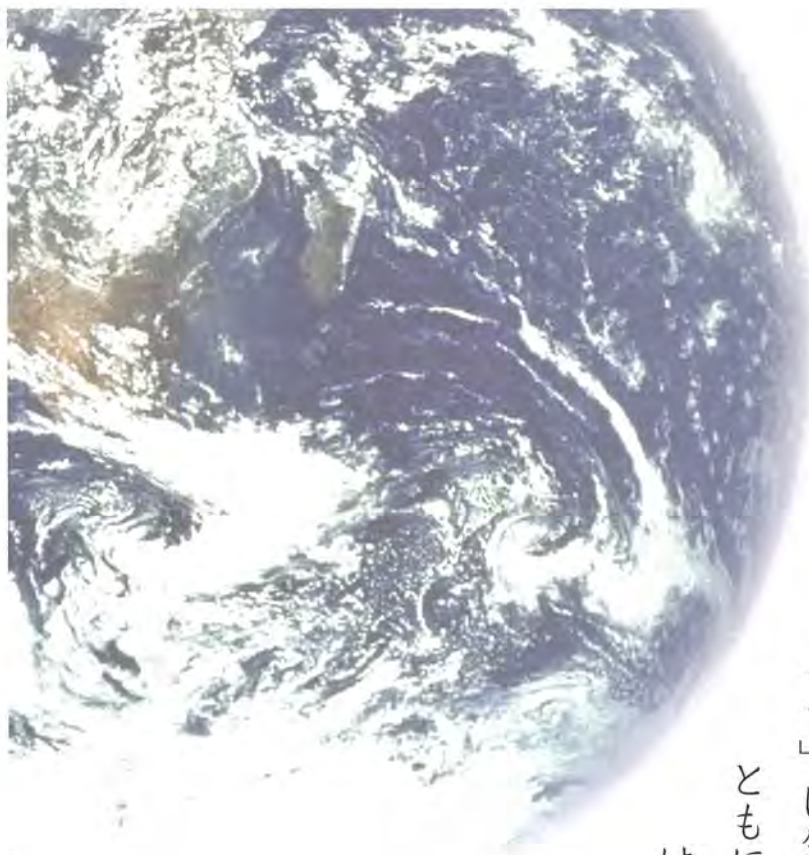
海辺をはだして歩いてみると、水は冷たく、時には、なまぬるい。ところが、手に持った棒切れで海水をたたいたときには、波しぶきは飛び散っても、水の冷たさや温かさはいっこうに伝わってはいかない。同じ水なのに、これはいったいどうしたことなのだ？ その違いに気づいて、「う？」と、声が出た。人間が初めて言葉を口にしたときの光景はきつとこんなことだったのだろう。

はだして水に触れば直接、棒で触れば間接。

人間がほかの動物と違うのは、言葉を使う、道具を使う、火を使うからという話は聞いたことがあるだろう。道具を使うというのは、この棒で海水に触れるように、間接に触れることを指す。

人間は二つの言葉とともに生きている。一つは目の前の相手に対しての直接の言葉。





それを「話し言葉」という。もう一つは、目の前にいない遠い相手に対しての間接の言葉。それを「書き言葉」という。だから書き言葉のつまった本を読むと、何千年も何百年も前の人の話だって聞くことができる。とてもふしぎなことだとは思わないかい？

「う？」に生まれた言葉は、「なぜ？」という、疑問と

ともにある。「なぜ空の色は青い？」「なぜ地球

はまるい？」。どんどん質問を見つけて、

お父さんやお母さん、先生や兄弟、友達

にたずねるのがいい。言葉とともにあ

る人間は、いつも「なぜ？」「な

ぜ？」と考えながら生きるように

できている。

直接の話し言葉と、間接の書き

言葉を合わせたものが人間の言葉。

だから言葉は、ひととおりの答え

ではなく、「だが」「しかし」などと、

違った答えを用意している。「お母さんはそう言うけれど……」 「先生にそうは言われても……」と思うことがあるのは、そのためなのだ。違う考えがあつてあたりまえなのだ。言葉は人間のあかし。言葉には「なぜ？」と「しかし……」がつきまとう。そして言葉には、「話す言葉」と「書く言葉」がある。

話すこともたいせつだが、「キョウダイ」と言つても、「兄弟」か「京大」か「鏡台」かの区別のつかない日本語では、書くことはもつとたいせつだ。

「書き言葉」は、遠い昔（過去）と、はるかな先（未来）までをもつなく、かけ橋でもある。

鉛筆やペンは筆記具。筆記具は道具。道具というのは紙や木や石や土などの相手にはたらきかけて、その形を変えるもの。そのため、筆記具の先も、刃物の先もみな先に向かつてとがっている。「書く」というのは、お百姓さんがくわ





で土を「搔」いてたがやすことや、彫刻家がのみで石を「欠」いて石像をつくることや、お母さんが野菜や肉や魚を切つて料理することと同じだ。

君も筆記具を手にとって書いてみよう。書くことを習慣にしよう。筆記具を持ち歩こう。日記をつけるのも良いだろう。手紙を書くのも良いことだ。パソコンでは、できないの活字しか出てこないが、手で書けば、まちがいはなく君自身の文字と言葉が生まれてくる。それは驚くべきことではないか。それはとても楽しい、心おどることではないか。書く言葉のうかばないときには、「楽書」でもすればいい。一本の線に一本の線が新たに加わるだけで、ノートはどんな姿を変えていくではないか。平仮名をどんどん速く書いていくと、いつしか縦や横の一本の線の姿に化けていくではないか。ノートのページが真っ黒に姿を変えていく途中にあらわれてくるいろんな姿は、これまで見たこともないふしぎな姿ではないか。

書くことは、かなしい心、さみしい心、おそれる心をやわらげてくれる。そして、楽しい心、うれしい心を長くとどめてくれる。それはパソコンやケータイではどうても手に入れることはできない生涯にわたる楽しみ。人間の宝物なのだ。

## ねこはどこまでわがままか —— 人はどこまで動物か<sup>どうぶつ</sup>

日高<sup>ひだか</sup> 敏隆<sup>としたか</sup>

ぼくの家には、もう三十年以上<sup>いじょうむかし</sup>昔から、いつもねこがいました。

もちろん同じ一匹きのねこがずっといたというわけではありません。新しいねこに入れかわりながらだったのですが、ねこがいないという時期<sup>じき</sup>はありませんでした。今も二匹きのねこがいます。

こんなに長い間ねこといっしょにしていると、「ねこってほんとうにわがままだな。」と思うことがよくあります。

「おいで！」とよんでもぜったいに来てくれません。ところが、とつぜん何を思ったか、ぼくが読んでいる新聞の上に来て来てすわりこんでしまったりします。そういうときは、





「どいて！」と言ってもぜったいにどこうとはしません。自分のしたいことばかりしていて、人の言うことなんか聞かないのです。犬だったら、かい主ぬしの命令めいれいにすぐしたがうのに……。

どうしてねこは、こんなにわがままなのでしょう？

それは、ねこがむれをつくって生きる動物ではないからです。

犬はそのそせんのオオカミと同じく、何びきかでむれになつてくらす動物です。むれの中の犬たちは、自分たちのリーダーじぶんかっにちゃんとしたがう、自分勝手じぶんかっなことはしません。そうしないと、むれから追おい出されてしまうからです。

犬はもともとそういう生き方をしてきた動物なので、人間にかわれるようになってからも、かい主を自分のリーダーだと思っっているのです。だからちゃんとかい主の言うことを聞くのです。



ねこは犬とちがって、大人おとなになったら一ぴきずつでくらす動物どうぶつです。だから、だれかの言うことを聞く必要ひつようもありません。自分ではんだんしながら、どうしたらよいかを決きめています。かい主ぬしが「おいで！」と言いったって、自分が行いきたくなければ近ちかよって行いったりはしません。でも、もし自分が行いきたかったら、かい主ぬしがなんと言いおうと近ちかよって行いくのです。だから「ねこはわがままだなあ。」と思おもわれるのです。それでは、ねこはかい主ぬしのことなんか考かんがえていないのでしようか？

どうやらそんなことはないようです。

実じつは、かわれているねこは、かい主ぬしのことを、とても気にしているのです。

例たとえば食しょく事じのとき、かい主ぬしの家族かぞくがみんな食たくの周まわりに集あつまってしまうと、ねこもその部へ屋やへやつてきます。ねこはささつき自分の食しょく事じはすませたので、おなかがすいているわけ





ではありません。でもかい主たちのそばへやって来ます。

そして、一メートルぐらいはなれたところにすわったり、ねころんだりして、かい主たちをじっと見ています。

ねこにはそれがとても楽しいことらしいのです。

何かの用事で家族がそろってどこかへ出かけようとする、ねこはとても不安ふあんそうになります。「みんなどこへ行っちゃうんだらう？」まるでそんな心配しんぱいをしているように思えます。

ねこはわがままだけど、かい主だいすが大好きなのです。かい主といっしょにいて、近くからじっと見ていたいです。けれどベタベタはしたくない。ねこのそんなせいしつが、ぼくは大好きです。



## 植物とわたし

## 北海道ですごした少年時代

河野 昭一



わたしが、子どものころ住んでいたのは、北海道の森の中の小さな家です。お父さん、お母さんや弟、そしておじいさんやおばあさんたち、家族がみんないっしょにくらしています。かやぶき屋根の小さな家の周りには、畑や牧場が広がり、近くには森がありました。家のすぐそばにあった馬小屋には、めすとおすの親馬二頭と、子馬が三頭いました。ときどき、馬さんたちに「かいば」（かわかした草）をやるのは、わたしと弟の仕事でした。わたしのおじいさんやおばあさんの一家が、遠い北の国、北海道へうつり住んできたのは、今から百年ほど前の明治三十八年（一九〇五年）のころだと知ったのは、だいぶあとで大人になってからのことです。南の国の九州や瀬戸内にうかぶ淡路島から、船に乗り、馬車に乗ったり、歩いたりして、一か月もかかってはるばる北海道へわたってきたという話を、初めて聞いたときはびっくりしました。

家の周りの森の中には、小さな川が曲がりくねって流れていました。長い冬が終わる



と、雪がとけるのを待ちかねたように、小川のほとりには真つ白で、十五センチほどのとても大きな花をつける植物が真つ先にさいていたことを、今でもよくおぼえています。でもこの植物は、なぜか花をさかせているときには、葉っぱは出していません。ところが、花がさき終わってから、一か月以上もたってから、とても大きな「うちわ」のような葉っぱを、によきによきと出しはじめ、小川のふちは大きな葉がたくさん、ならんで生えていました。

林の中やへりには、春になると、白や、黄色や、すみれ色のいろいろな花がさいていました。子どものころには、花の名前は知りませんでした。色のちがう花を、小さな「かご」いっぱいにつんで遊んだことを、よくおぼえています。

七才になった春、四月から学校へ通いはじめました。毎日、山の中の家から学校へ通うのはなかなかたいへんでした。朝、早く起きて一時間ほど山道を、とことこ歩かないと、学校へたどり着けなかったからです。

でも、このころ、学校での勉強が終わり、家に帰るとちゅうでは、よく道草をくって、林や小川のそばにさいているきれいな花をつんだり、ザリガニをつかまえたりしながら、家まで帰るのが毎日でした。

秋になると、近くに住んでいた友達といっしょに学校からの帰り道で、大きな木にまきついた「つる」のあちこちに、こいむらさき色のふさをつりさげたヤマブドウや、こい緑色にじゆくしたサルナシの実をさがしながら帰りました。じゆくした実を見つけると、「つる」をひっぱりおろしたり、木によじ登り、実をつんではよく食べました。じゆくした実は、とてもあまく、その色や、指でさわってみるとじゆくした実はやわらかいので、すぐにわかりました。

学校が休みの日には、おじさんといっしょに、少しはなれたところにある牧場に、放しがいにしていた馬をつれに行きました。はだか馬にまたがり得意になっていたとき、急に馬が走り出してふり落とされたことも、よくありました。でも、今、思い出すと、とても楽しい毎日でした。

そのころ、北海道のいなかでは、はなればなれの一けん家には電気がなかったのです。夜はランプのほの暗い光の中で夕ご飯をすませ、そのあとでは本も読めない暗い毎日でした。でも、今、思い出すと、近くの小川でザリガニをつかまえたり、木に登り木の実を食べたりして、とても楽しかったことをおぼえています。

家の周りにもたくさんの花がさきましたが、その名前は知りませんでした。何年かあ





▲シラネアオイ



◀ミズバシヨウ

とになって中学へ入り、先生に教えてもらい、花の名前を初めて知りました。春早く、雪がとけると大きな白い花だけをさかせ、あとで大きな「うちわ」のような葉をひろげるのは、ミズバシヨウでした。直径が三センチぐらいで、白く細長い花びらをたくさんつける花は、キクザキイチリンソウでした。黄色で五まいの花びらをつけるのはキジムシロというバラの仲間の草でした。わたしの住んでいた周りの森には、このほかに、タチツボスミレというスミレの花や、エンレイソウというユリの仲間、そして、とても大きくかわったうすむらさき色の花をさかせるシラネアオイというキンポウゲの仲間の植物などが、たくさんあることを知りました。高校、大学へ入ってから、植物を勉強し、今でも日本中あちこちをたずねて、いろいろな花を調べまわっています。

みなさんは、京都市役所しやくしよの前の道が「御池通り」とよばれているのを知っていますか。この道を西へ進むと「神泉苑」という池があります。実は、御池通りという名前は、この神泉苑に通じる道であるところからつけられたもので、その神泉苑を「御池」ともよんでいたせいにしてきたのです。昔は今よりずっと大きな池でした。地元の人々は「ヒゼンサン」とよんでいます。親しみが感じら

▼げんざいの神泉苑



▲雅楽船(池にうかべた船で音楽などを楽しんだ)

村井 康彦  
むらい やすひこ



れてここちよいですね。この池が人々の生活に欠かせない、大事な池だったことがよくわかります。

遠い昔、平安京がつくられる以前、この京都ぼん地には森の緑が広がり、あちこちに池やぬまがありました。北の山地からはゆたかな地下水が流れ、それらの池やぬまにながっていました。とくに神泉苑は、どんなに日照りが続いても水がかれることはなかったのです。そこで八世紀の末に平安京がつくられたときには、この池の周りに中国風の建物が建てられ、とてもしつぱな園池として整えられました。天皇や貴族は季節の変わるたびにおとずれ、当時さかんであった漢詩を熱心につくったものでした。

ところが九世紀の半ばに、日照りが続き、京の町は水不足におちいってしまいます。そこで役所では、神泉苑の水をいっぱん市民に開放することを決めたのです。これが、これまで貴族の遊樂の場であった神泉苑が、市民の生活にとって、たいせつな水げんへと変わっていききつかけとなりました。

同じころ、えき病も大流行しました。それを当時の人々は、せいじのけんりよく争いに敗れて死んだ人たちのうらみのためと考え、たいへんおそれていました。そこでこれをなくさめるため、神泉苑に祭だんをつくり、果物をそなえ、芸のうをほうのうするな



▲八坂神社

やまほこ  
▼祇園祭の山鉾



つづ  
続いているのです。

話を神泉苑にもどしましょう。九世紀の半ば、日照りが続いたとき、神泉苑の水を市民の水として開放したことは前に言いましたが、のちには水不足のたびに、南のほうにあった田んぼのかがい用水にも使われるようになりました。そこでこんな言い伝えが生まれています。

「神泉苑の水を開放したらかならず雨がふる。」

このことから、この池がすっかり人々の生活にだけ

どして、祭りを行ったのです。これが御霊会とよばれた祭りです。毎年七月八坂神社で行われる祇園祭も、正しくは祇園御霊会といい、神泉苑以来各所で行われるようになっていた御霊会の中で最もさかんとしたもので、それが今でも





▲ 京都御所

こんだことがよくわかりますね。京都が千二百年をこえる、長い年月続いてきたのも、人々が生活の中でさまざまにちえをはたらかせたからでした。

「京都」とはもともと「みやこ」つまり天皇の住む所という意味です。「みやこ」は飛鳥や奈良などいろいろな所に置かれてきました。しかし地名として「京都」と書かれることはありませんでした。わたしたちの住む、この京都だけです。それはこのまちに人々が住み続け、「みやこ」にふさわしい文化を生み出し伝うを守り続けてきたからです。「みやこ」としての京都が地名としての京都になったのは平安時代の終わりのころでした。

みなさんも「京都」とよんでみましょう。この地名のもつやさしいひびきは、今も「みやこ」のゆうがなおもむきを表しているかのようです。それがみりよくなつて、多くの人たちがこの都市にあこがれ、おとずれているのでしよう。京都だからこそだと思います。

# 心の広場

◇ 心に残った学習のこがくじょう

◇ 真けんしんに考えたこと、大事だいじだなあと考えたこと

☆ 今までのわたしについて思っていること



きみも身につけよう 社会のマナーやルール  
 府民ほっとメッセージ(1)

あいさつは  
 言えは言うほど  
 いい気持ち



手をつなぎ  
 未来のとびら  
 きずな生む



広げよう  
 手と手をつなぎ  
 笑顔の和



飛び出しは  
 事このもとだよ  
 赤信号



まちがいはだれにでもあるよ  
 それを直すのはだれでもない  
 自分自身なんだよ!



きみ「ありがとう」  
 言えますか  
 あなた「すみません」  
 言えますか  
 自分のために



毎日を笑顔でかわす 言葉にも  
 やさしい心で  
 平和な家庭



一人でもやってみる勇氣!  
 ルールやマナーを  
 守ろうね



ゆずり合う  
 やさしい気持ち  
 おたがいに!





# きみも身につけよう 社会のマナーやルール

雨ふりも  
かわすあいさつ  
心はれ



信号機 黄色の顔は  
無理せずに



生活の  
初めの一歩  
ルールから



赤信号  
みんなであたれば  
大めいわく



一生けん命が  
きみのゆめ 開く



人はみな一人じゃないから  
マナーとルール



あなたのメッセージをここに書きましょう

Blank area for writing a message.

Blank area for writing a message.



## 第二部

第二部は、みなさんと同じ京都府の小学生がゆめや願いをもって、自分のことや周りのことについて書いた作文をのせたページです。

\*また、それぞれの作文に対して「おうえんメッセージ」がよせられています。

第二部のあとは「府民ほっとメッセージ」のページです。

みなさんを見守り、はげますためにとけられた府民のみなさんの声をしようかいています。

## 1 正しいことを正しいと言えるクラスに

ぼくが、朝、学校に来て、かばんを下ろして遊びに行こうとしたときのことですが。Aくんが自分のノートを持って、Bくんのところに来て「ぼくの宿題やっておいて。」と言いました。ぼくは、そこで思いました。「なんで、宿題を自分でしてこないんだろう。」Bくんは、「いやや。」とか「自分の宿題ぐらい、自分ですればいいやん。」と言わなかったのも、「へんだなあ。」と思いました。

ぼくは、Aくんに「そんなこと言うのはやめろよ。」と言っても、したうちばかりして、聞いてくれませんでした。となりにいたCくんも、「自分でやれよ。」と注意しているのに、まったく聞かず、Bくんに自分のノートをあずけたまま、遊びに行きました。ぼくたち以外の人は、何も言いませんでした。そんなことが何回か続いて、B





くんは宿題をやらされるばかりでした。

先生に宿題のことがわかり、Aくんも反省はんせいしていると聞いたけど、ぼくは、ぜんぜん気がすみませんでした。Aくんは、自分のことぐらいは自分でしないといけないし、みんなだって、けんかが強い、力が強いからAくんには、注意しないというのは、よくないと思います。だれでもが、どんな人にだって注意してほしいです。そして、注意された人もちゃんとその注意を聞いてほしいです。

ぼくは、正しいことが正しいと言えるクラスにしていきたいと思います。

## おうえんメッセージ

きゅうき ひさよ  
久木 久代

学級がっきゅうの中を、もう一度いちどぐるりと見てみよう。元気な人、おとなしい人、おしゃべりが好きすな人、話すのが苦手にがてな人、しっかりそうじができる人、ちよっぴりなまけてしまう人、給食きゅうしょくの早い人、おそい人、力の強い人、はずかしがりやさん……、いろんな人がいるでしょう。もちろん顔も体かくもちがうよね。

そんないろんな人たちが毎日いっしょにすごすところが学級だ。

みんなが気持ちきもちよく生活できるためには、どうしていったらいいのかなあ。

## 2 おじいちゃんのおそう式しき

人はいつ、どこで、何で死ぬのかわからないです。

夜、おじいちゃんが死んだと電話で聞いて、お父とうさんとお母かあさんとわたしは、とつ

ぜんなのでおどろきました。

おそう式の初はじめにおきようをとなえました。おじいちゃんおじいちゃんの顔を見たとき、悲かなしくなりました。わたしは、おじいちゃんにお花をそなえました。お母さんやおばちゃんたちもたくさんのお花をそなえました。おじいちゃんはお酒さけが大好きだいすだったから、おかんの中にお酒も入れました。親せきのみんなまで書いたよせ書きも入れました。わたしは、「おじいちゃん、わたしが大人おとなになるのをずっと見守みまもってほしかったです。安らかに





ねむってください。」と書きました。  
そして、おかんをしめて、くぎを打っ  
て、おじいちゃんを焼やきました。とっ  
ても悲しかったです。おじいちゃんの  
ほねは、真まっ白までした。はしでひろっ  
てほねをつぼに入れました。

おじいちゃんとは、はなれてくらし  
ていました。お正月と夏休みにしか会  
えませんでした。それに、耳が悪わるくなっ  
ていたので、あまりおしゃべりが通じ  
ませんでした。もっとお話がしたかつ  
たです。声が聞きたかったです。でも、  
おじいちゃんの顔は、今でも覚おぼえてい  
ます。

わたしのおじいちゃんは、八十八才





と八か月生きました。わたしは、おじいちゃんよりもっと長生きしたいです。わたしの家族かぞくや親せき、友達ともだちにも長生きしてほしいです。

わたしは、まだ子どもだから、死しというものがあまりよくわかりません。でも、おじいちゃんは、世界せかいでたった一人ひとりしかいないということはわかります。おじいちゃんが死んでしまっても、わたしは、おじいちゃんのことをわすれないです。



人間の死というものは、自分が体験たいけんできるものではありません。ですから、死をりかいたするのは、他人たにんの死のみです。しかも、身近みぢかな人の死ほどそのあたえる感かんがいは深ふかくなるのがつねです。

おじいちゃんはいっしょにくらしていなくても、それゆえに、かえってたまたまの出会いが、いつそう思いを深めるのではないでしょうか。

もっとお話をしておけばよかった、もっと会う機会きかいをもちたかった、というおじいちゃんのことを思うとき、今元気で身近みぢかにおられる、お父とうさん、お母かあさんとの日々の生活に、より深い意味いみを見いだしていきたいと思います。死も別わかれもかならずおとずれるからです。



## 3

友達ともだちっていいなあ

友達が、ある人から

「ぜっこう」。

と言われているのを聞きました。

わたしは、ぜっこうという言葉は、ことばけん

かをしたただけで言う言葉ではないと思いま

す。そもそもぜっこうという言葉は、「友

達をやめ」「一生なか仲よくしない」という意

味だと、わたしは、思っています。それに

その言葉は、言われた相手あいてをすぐくきずつ

ける言葉です。

だいす大好きな人や親友と思っていた人から言





われたとしたら、「もう、学校なんて行きたくない」「友達なんていらぬ」と思ってしまう場合もあると思います。いじめられたり、みんなにきらわれたりしたら、死しにたいと思うかもしれません。

わたしも、ささいなことで友達をなくしかけたことがあります。そのときは、だれに相談そうだんしたらいいのかわからず、学校に行きたくありませんでした。しかし、わたしをささえてくれたのは、やっぱり『友達』です。もう、みんなにきらわれたと思っていましたが、ずっといっしょにいてくれた友達だけは、わたしに、

「だいじょうぶ。元気出して。」

と言ってくれました。ふつうのときは、



「ありがとう。」

とそれだけですが、そのときは、なみだが出そ  
うなくらいうれしかったです。この言葉で、わ  
たしは、すごく勇氣ゆうきをもらいました。だれかに  
きらわれても、かげで、悪口わるぐちを言われても、そ  
の友達ともだちだけは、わたしの味方みかたをしてくれました。  
そのとき、わたしは、初めてはじ、「友達ともだちっていい  
なあ」と思いました。

言葉は、人をきずつける言葉もあれば、はげ  
ます言葉にもなると思います。



ある、つみをおかした人の話です。自分のかこをふり返ってみますと、なに一人からほめられたことが思いつきません。ただ一つだけ、小学校五年生のとき、図画のこうずがうまい、といって先生にほめられたきおくがよみがえりました。さっそく、かれは、この先生に手紙を出したところ、先生から返事が返ってきました。その中には、当然のことですが、つみをつぐなって人の道に立ち返ることが説かれていました。

たった一つのほめ言葉が、かれの人生に意味をあたえてくれた、この先生の手紙を心から喜んだことはいうまでもありません。ほんとうに、一言でもたいせつにしなければなりません。いい友達をもって、よかったですね。



## 4 家族

去年、わたしに弟ができました。

今まで、わたしは、弟や妹がほしくありませんでした。なぜなら、もし弟や妹ができれば、家族みんなが弟や妹のほうに気持ちがいってしまって、さみしくなる気がしたからです。

だから、弟か妹ができるとわかったとき、いろいろな人から

「生まれるんやなあ、うれしいなあ。」

「妹か弟ができるし、いいなあ。」

と言われても、そんなにうれしく思いませんでした。

けれど、弟が生まれて初めて顔を見たとき、







とてもかわいいなと思いました。そして、たい院いんしてから家で初めてだいたとき、もったかわいいと思いました。弟が少し大きくなつて首がすわったとき、やっとすわったと思つてほっとしました。そして、初めてね返りがえをうったときは、とてもうれしかったです。

弟が声を出して笑わらうとわたしまでうれしし、泣なくとわたしまで悲かなしい悲しい気持ちになつたりします。

弟がまだ生まれていないときは、ほかの人の赤ちゃんを見ても何も思わなかったのに、生まれてからは、なぜかわからないけど、どの赤ちゃんを見てもかわいいと思うようになりました。

今は、弟が小さいのでみんなで遊あそびに行つ

たり旅行りょこうに行ったりできなけれど、弟が出かけられるようになるまで、わたしは、がまんしても平気へいきです。弟が生まれても前よりもっとたくさん、家族かぞくで話をしたりする時間がふえました。

弟には、これからたくさんいろいろなことを話してあげたり、遊あそんであげたりしたいです。そして、家族みんなで出かけたりしたいと思います。

わたしは、弟ができて、ほんとうによかったと思います。





弟ができたときのきみの喜びようが、手に取るようにわかります。弟といっしょに笑ったり悲しんだりするかかわりもすばらしいです。

弟が今のきみの年令になるころ、きみはもう大人ですね。自分が生まれたことを心より喜んでくれたお姉ちゃんに、やさしく自分を世話してくれたお姉ちゃんに、弟はかんしゃの気持ちでいっぱいになることでしょう。

「いいなあ、かわいい弟がいて……。わたしなんてひとりっ子だから……。」という声も聞こえてきそうです。でも、いいんじゃない？ お父さん、お母さん、おじいちゃんやおばあちゃんのお愛をひとりじめできるんだから。

家族って、人数ではないですよ。大事なのは、おたがいにどれだけ思いやれるかということではないでしょうか。



## 5 係かかりのこと

ぼくは、学級がっきゅうの係かかりで遊あそび係かかりをしています。  
このクラスでは、遊あそび係かかりは、ハッピー係かかりとい  
う名前なまえになっています。ハッピー係かかりの意味いみは、  
ハッピーにみんながなれるように係かかりの活動かつどうを  
するという意味いみです。ハッピー係かかりでは、週しゅうに  
三回さんかいぐらい遊あそびの計画けいかくを立ててやっています。  
でも、やっぱり、もめ合いもめあひになることがたま  
にあります。そうそうなったときは、ハッピー係かかり  
がいろいろ相談そうだんをして、次つぎはこのようにしよ  
うと考かんえて、遊あそびを決きめたりします。係かかりの相  
談だんでも、意見いけんが合あわなかって、もめ合いもめあひにな





ることもあります。でも、ぼくは、それがあつてこそ、みんながなっとくできた遊びを決めることができるんだなあ、と思っています。

ぼくは、遊びでけんかもあるけれど、みんな、いっぱい笑顔がでできるし、ぼく自身も遊びはとても楽しいです。ハッピー係は、九人か十人ぐらいいます。少し多いのでグループに分けてうまく相談をしています。何か問題があったりするときは、みんなて話し合っています。

遊びのチームを決めるときはたいへんです。チームに対して少しいやなことを言ったりすると、

「不公平や。」

などと、言ったりする人もいます。そういう





ことがないようにチームを考えてつくっていきたいです。

もっともっと、遊びあそでクラス全員ぜんいんがハッピーになれるように、ハッピー係がかりもいろいろがんばって遊びやチームを決きめたいです。そして問題もんだいがあったらいろいろ相談そうだんしてがんばって係かっどの活動どうをしたいです。



学級には、たくさんの方がいますね。その人たちが、全員同じ意見をもっていることは、まずありません。むしろ、みんなが同じ考えをもっているほうが不自然です。

おおぜいの方が集まれば、意見がちがうのがあたりまえ。だからこそ、話し合っ  
て、意見をまとめるのですね。

ちがう意見を一つにするのですから、ときにはもめることもあるでしょう。でも、まずは、みんながきちんと意見を発表することがたいせつです。それを係の人が公平にはんだんして、みんながなっとくした上でいっしょに遊べば、それこそとてもハッピーになれます。



## 6

ぼ金活動きんかつどう

わたしは、毎週、土曜日と日曜日に、観光客でにぎわう天橋立へ行ったり、駅へ行ったり、大型スーパーマーケットに行ったりして、ぼ金活動をしています。

なぜそんなことをしているかというところ、わたしが去年まで住んでいた家の近所の中  
学二年生のお姉さんが、重い心ぞう病になり、アメリカに行つて心ぞういしよくをし  
なければ助からないからです。でもそのためには、たいへんながくのお金が必要です。  
地元の人を中心に、ぼ金活動をして、みんなでお金を集めているのです。

わたしは、日曜日に京都市内までぼ金活動をしに行きました。お父さんとお母さん  
とお兄ちゃんといっしょに行きました。京都までは、お友達に乘せてもらつて行きま  
した。家から京都まではとても遠いので、着くのにすごく時間がかかりました。





京都に着いて、七人ぐらいに分かれてぼ金を始めました。わたしは、

「お願いします。」

「ありがとうございます。」

と言っていました。ぼ金を入れてくれた人の中で、

「少しだけど、がんばってくださいね。」

と言ってくれる人がいました。とってもうれしかったです。全体的に、百円を入れてくれる人が多かったけど、中には一万円を入れてくれる人がいて、びっくりしました。休けいをしてから、またぼ金活動をしました。お金がどんどんたまっていったので、うれしかったです。やっと終わって、わたしは、

「はあ、足がいたい。」

と言いました。なぜかというと、四時間近くもやっていたからです。わたしは、「今日は、たくさん入れてもらったなあ。」と思いました。

そして家へ帰りました。いろいろあって、家に帰ったのは九時でした。

これからも九千万円というお金があるので、ぼ金活動きんかつどうをがんばろうと思います。だからこれからも、いろんな人に協力きょうりやくしてほしいです。

(このぼ金活動の結果、全国ぜんこくから一億三千万円をこえるぼ金あつが集まりました。そのお金で、このお姉さんねえはアメリカに行くことができ、心ぞうていきよう者しやも見つかつて、無事ぶじしゅじゅつに成功せいこうすることができました。今、元気に生活しています。)





あなたの作文を読み、あなたの愛の活動にはくしゅを送ります。わたしも、わ  
かいとき、ぼ金活動をしました。それはたいへんな仕事でした。あなたが、その  
つらい活動を続けられたのは、深い「思いやりの心」があったからでしょう。

苦しんでいる人に救いの手をさしのべることは、とてもとうといことです。あ  
なたの「思いやりの行い」は、苦しむ人たちをカづけ、幸せにしました。

かけがえのない命を救ったあなたのすばらしい体験をたいせつにしてください。  
そして、「思いやりの心」をもって、自分のことしか考えない社会のやみを照ら  
していつてください。きっと、すばらしい明日が生まれることでしょう。



## 7 ジュニアバンドは楽しい

わたしは、ジュニアバンドに入っています。週に三回の練習れんしゅうがあります。たまに、「たいへんだな。」と思うこともありますが、ずっと、続つづけています。

先生は、きびしくてこわいけど、たまに、おもしろいときがあるので、楽しいです。

むずかしい曲きょくができないときは、自分にはらが立つけれど、曲きょくが上手じょうずにふけると、気持きもちちいいです。わたしは、むずかしい曲ができたとき、とても楽しいです。休む人が多いときは、「あまり、休まないでほしい。」と思います。

初めて、ジュニアバンドのえんそうをきいたときは、「えっ、こんな楽が器きだけで、







こんな曲ができるの。」と思いました。  
初めは、歌の練習ばかりでつまらなかつたけれど、少しずつ楽器がふけるようになってきたら、とても楽しくなりました。上級生は、上手なので、すごいなあと思っていたけど、「わたしも、いつか、こんなふうになれるんだ。」と思うと、今は、わくわくしています。

わたしが、初めて楽器をふいたときは、思っていたのとぜんぜんちがうふき方だったので、音が出るまでがたいへんでした。でも、上級生の方がやさしく教えてくれたので、ふけるようになりました。わたしのたんとうは、ホルンです。指を覚えたりしなければならなかったので、

「思っていたより、たいへんなんだなあ。」と思いました。今では、上手じょうずにふけるようになりました。指ゆびづか使いも、ちゃんと覚えて、ふけるようになったので楽しいです。

わたしは、今、ジュニアバンドを続つづけていて、よかったと思います。いろんな音楽にきょうみがもてるようになったからです。ほかにも、ジュニアバンドをやっているよかったと思うことがあります。それは、先生の言葉ことばを聞いてわかったことです。「去年ねんとくらべて人数が少なくて、体の大きさもちがうけど、どちらがうまいとか下手へたとかくらべるのは、意味いみがない。」ということですよ。

これから、もっと練習れんしゅうして、もっと上手になれると思うと、どんどんやる気がわいてきます。これからも、がんばって練習を続けていきたいと思えます。



毎日の勉強べんきょうや係かかりの仕事しごと、そうじなどは、「自分がやらなければならないこと」です。でも、それだけでは、自分を高めることはできません。さらに、「自分でやろうと決めたこと」に対してたいも積極的せつぎよくてきに取り組み、ねばり強くやりとげることが必要ひつようです。ジュニアバンドは、『わたし』を大きく育てそだててくれます。

もっと練習すればもっと上手になり、もっとやる気がわいてくるだろうと考える『わたし』。学年が進むすすにつれ、より高い目標もくひょうを立て、希望きぼうをもって前進ぜんしんする『わたし』のすがたがそうぞうできます。

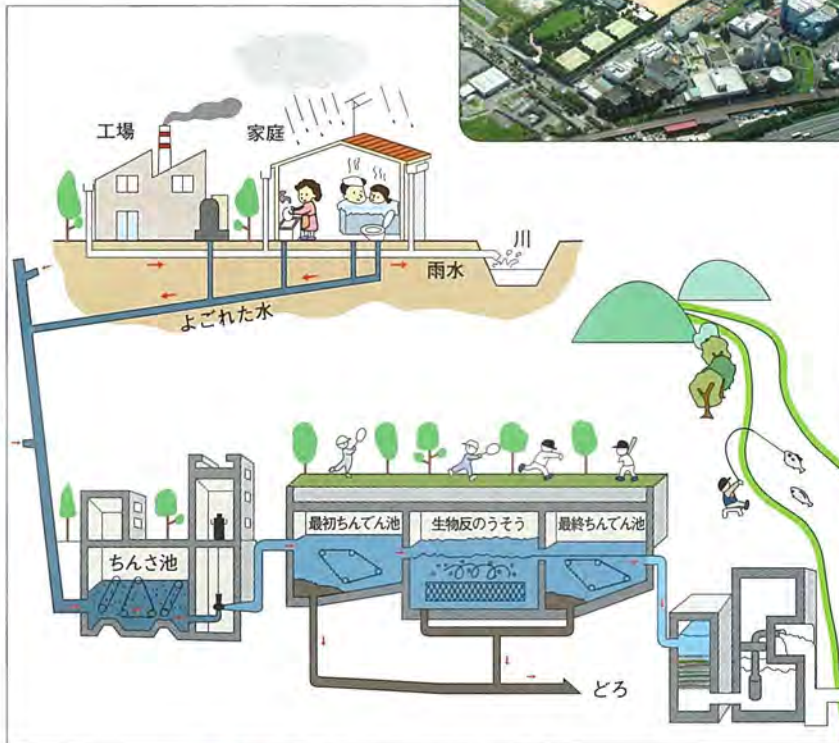
ところで、みなさんには、「自分でやろうと決めたこと」がありますか？ まだ決めてなければ、早くつくったほうがいいですよ。



## 8 じょう化センター

じょう化センターに行つて、初めに見たのが、最初ちんでん池でした。最初ちんでん池では、あわがふき出ていました。最初ちんでん池では、どろをしずめるそうです。

次に見たのが、生物反のうそうのかつせいおでいです。そこでも、あわがふき出ていて、これは空気にあわで、このあわを送ることで、び生物が、よこれを食べてくれるのだそうです。見ると、はしに、よこれがかたまっていました。



▲じょう化センターのしくみ





▲木津川，宇治川，桂川の合流点付近

最後には、最終ちんでん池に行きました。最終ちんでん池には、きれいな水が流れるみぞがあり、その前で、び生物をしずませます。みぞには、すぐくきれいな水が流れていました。

思ったことは、家庭、工場などから出たきたない水を、きれいにするには、とても時間がかかるけれど、じょう化センターの人たちのおかげで、きれいな水にできるんだなあと思いました。

わたしの家では、お父さんが、せんとく物をあらっています。お父さんは、せんざいの量をきちんと量っ

て入れます。どうしてかというど、「せんざいをきちんと量はからないと、せんざいのむだになるし、水もむだになるからだよ。」と言っていました。また、うちでは金魚をかってるので、雨水をためておいて、その雨水で金魚をかっています。これは、お母かあさんのアイデアです。お母さんは、油あぶらを使うと、油つかをいつもかためてから、古新聞にくるんでいるので、台所だいどころの流し台ながには、ぜったい流しません。このことについてわたしは、お母さんは、最初さいしょからこのことを知っていて、かためていたことは、とてもえらいと思います。

ビデオを見て、カレーなどのおさらは、きれいにふいてからあらう、マンホールに、ガソリンなどが入らないようにする。せんざいを多めに使わず、きちんと量りょうを量はかってから入れる。トイレに、紙などでも、水にとけないものは、ぜったいに入れてはいけないことなど、ほかに、入れてはいけないもの、してはいけないことなどがわかりました。川や海がいつもきれいなのは、じょう化かセンターの人たちが、水をきれいにしてくれているからだと思いました。また、び生物せいぶつも、空気おくを送おくってもらえるかわりに、水みづのよよこれこれを食べていることがわかりました。

わたしは、川遊かわあそびはしたことがないけど、もしするとしたら、やはりきたない水みづよ



り、きれいな水で遊ぶほうが、気持ちがいいです。海で泳ぐときにも、ごみなどが落ちていたらいやなので、きれいなほうがいいです。川も海も、いつでもきれいにするには、自分たち一人一人がルールを守ることが大事だと思いました。

## おうえんメッセージ

梶田 真章  
かじた しんしょう

じょう化センターを見学して学んだことが、ていねいにまとめられた文ですね。じょう化センターの人たちとび生物のおかげで水がきれいになるしくみがよくわかりました。じょう化センターだけでなく、森では死んだ動物やかれた植物が無数のび生物のはたらきで土になります。ふだんは、わたしたちの知らないところではたらいっている人たちや、小さな生き物のことをそうぞうしながら、いろいろなことに気をつけて、なるべく水をよごさない生活を心がけて実行していきたいものです。自然をたいせつにするためには、木を植えることよりも生き物どうしの助け合いのしくみがこわれてしまわないように、毎日のくらしの中で、もったいないことをなくしていくことがたいせつなのだと思います。

## 9 守れ、天橋立

わたしたち、四年生は、そうごう的<sup>てき</sup>な学<sup>がく</sup>習<sup>しゅう</sup>の時間<sup>じかん</sup>に「地<sup>ち</sup>い<sup>い</sup>きの自<sup>じ</sup>然<sup>ぜん</sup>」を調<sup>しら</sup>べることにな<sup>な</sup>りました。

りようしさんたちに話を聞いてみると、昔<sup>むかし</sup>の阿<sup>あ</sup>蘇<sup>そ</sup>海<sup>かい</sup>は、魚<sup>い</sup>がた<sup>く</sup>さ<sup>ん</sup>い<sup>い</sup>て、食<sup>く</sup>べ<sup>ら</sup>れ<sup>る</sup>海<sup>う</sup>草<sup>くさ</sup>もた<sup>く</sup>さ<sup>ん</sup>あ<sup>あ</sup>り、と<sup>と</sup>ても<sup>と</sup>も<sup>も</sup>き<sup>れ</sup>い<sup>い</sup>だ<sup>っ</sup>た<sup>そ</sup>う<sup>う</sup>です。

でも今は、よく見ると日本<sup>さんけい</sup>三<sup>さん</sup>景<sup>けい</sup>の天<sup>てん</sup>橋<sup>きょう</sup>立<sup>た</sup>にごみ<sup>ごみ</sup>が<sup>た</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>ん</sup>あ<sup>あ</sup>り、海<sup>う</sup>の水<sup>みづ</sup>が<sup>よ</sup>ご<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>魚<sup>い</sup>の<sup>い</sup>数<sup>かず</sup>が<sup>へ</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>ま</sup>す。

この前<sup>まへ</sup>、四<sup>し</sup>年<sup>ねん</sup>生<sup>せい</sup>全<sup>ぜん</sup>員<sup>いん</sup>で、天<sup>てん</sup>橋<sup>きょう</sup>立<sup>た</sup>ク<sup>く</sup>リ<sup>り</sup>ン<sup>ん</sup>作<sup>さく</sup>



▲天橋立





◀天橋立クリーン作戦



戦せんに行きました。はんごとに大きなごみぶくろを一つずつもらい、はんの人と一生けん命めいごみ拾ひろいをしました。拾ひろい始はじめて何分かたったら、ペットボトル、ペットボトルのキャップ、ストロー、おべんとうなどを包つつんであるビニール、ボール、ライター、プラスチックやガラス板いた、カップラーメンのカップなどいろんなごみが見つかりました。なかには、まだ使つかえそうなタイヤやなべまでありました。ごみぶくろはすぐにいっぱいになり、わたしは、びっくりするような量りょうのごみを拾ひろっていたことに気がつきました。

この天橋立を、ある人がボランティアとして十年間いじゅう以上、毎朝ごみ拾ひろいや草くさかりな



▲そうじをしているボランティアの人

どのそうじをしているということを知りました。その人は、かぜをひいても雨の日でも、かならず朝早く起きて、三時間もそうじをしているそうです。わたしは、それはとてもたいへんなことだと思いました。

でもごみは、まだまだたくさんあります。このごろは、ごみぶくろごと流れてくるということも聞きました。

わたしは、これから自分もそうじをしたいし、学校のクリーン作戦もふやしたいです。そしてこれからは、だれもが川や海にごみを流さないように気をつけていけば、天橋立も昔のように、もっときれいになると思います。いつまでも美しい地いきの自然を、わたしは、ずっと守っていきたいです。



## ボランティアのかたの話

少しでも、天橋立や阿蘇海あそかいをきれいにしようとして毎朝そうじを続け、今までに集めたごみは、二千三百五十ふくろにもなります。去年きょねん、病氣びょうきをして体力も落ちましたが、体が動く間はそうじを続けていこうと思っています。

天橋立は、地いきのたからです。みんなで力を合わせ、これからも美しい景色けしきを残していつてほしいです。

## おうえんメッセージ

河合 雅雄かわい まさを

うーん、こまりますね。ごみをまきちらして自然をよごす人は。でも、子どもたちがごみそうじをしているすがたを見たら、そんな人も心を入れかえるでしょう。天橋立は、魚もたくさんすむきれいな海があつてこそ、美しい景色がなりたちます。これからもずっと日本三景さんけいとしてたたえられるように、子どものクリーン作戦、がんばれ！



# 大好きふるさと



▲ヒガンバナ

わたしの住んでいる所のいいところは、田んぼ、畑はたけがいっぱいあり、ヒガンバナの行列ぎょうれつができていくところですよ。車で走っているととてもきれいです。

ヒガンバナは、いろいろな所にさいています。わたしの通学路つうがくろのとちゅうにもさいています。右側みぎがわも左側ひだりがわもとてもきれいです。

田んぼは、今は、黄色ですよ。全部ぜんぶが黄色でうめつくされています。それも、風がふくとゆれるのできれいです。バスで通学している人たちに聞くと、まわりは田んぼばかりだそうですが、





▲実みのったいね

## おうえんメッセージ

坪内穂典つぼうち ねんでん

ヒガンバナの行列ができる。田んぼは黄色でうめつくされる。このような具体ぐたい的なひょうげんがとてもいいですね。あなたのきょうどへの愛あいがたしかでしっかりしていることをその具体的なひょうげんがしめしています。行きたくなりませんでした。そして、あなたといっしょにヒガンバナの道を歩きたくなりました。

わたしは四国しこくの半島の村がふるさどですが、青い海のその半島では、ツワブキの黄色い花がいつせいにさくのですよ。あなたに見せたいです。

機会きかいがあったら、おたがいにふるさとじまんをしましょうか。

全部が黄色でとてもきれいだそうです。  
わたしのふるさとは、きれいな所ばかりなので見に来てほしいです。

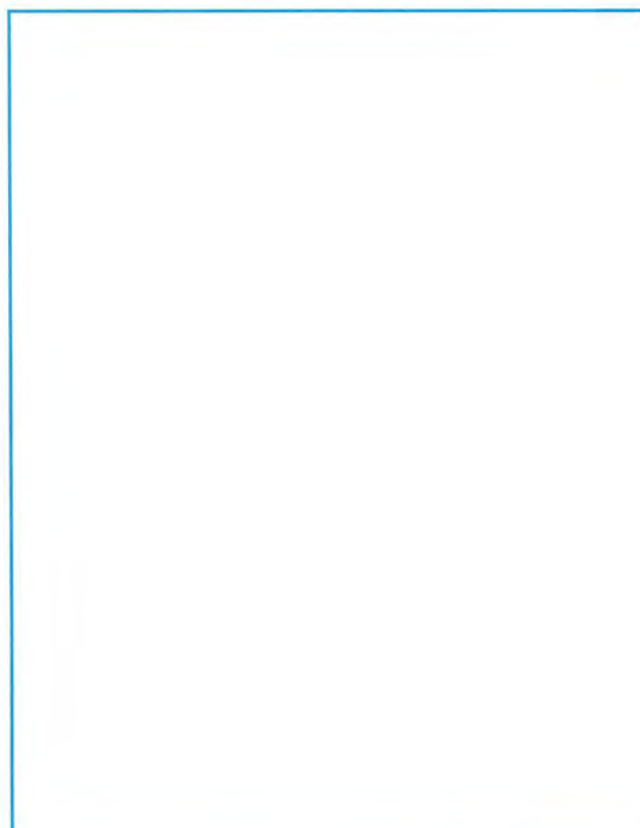
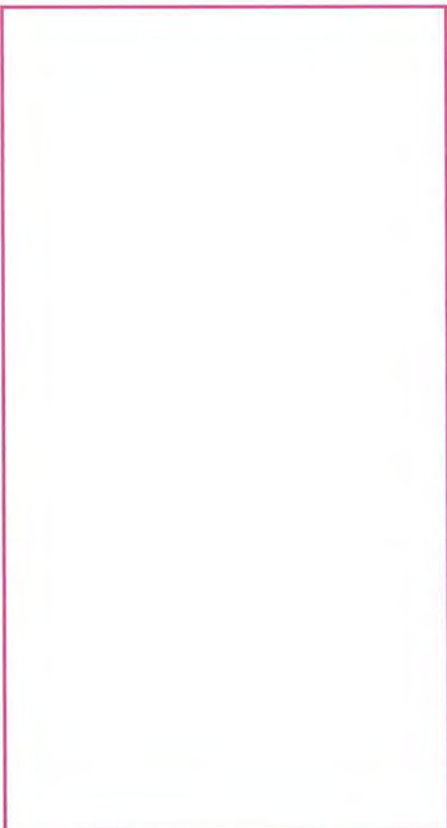
## 心の広場

◇ 心に残った学習

◇ 真けんしんに考えたこと、大事だいじだなあと考えたこと



☆今のわたし、これからのわたしについて思っていること



小学校3年生の長男が右手をこっせつし学校を休んだとき、同級生の友達が弟といっしょにゼリーを1つずつ持って、「おみまい」と言って、来てくれました。

さりげないやさしさがすごくうれしくて、大人ならいろいろ考えてちゅうちょしてしまうところですが、じゅんすいな心を感じ、いい子だなとうれしくなりました。

がまんしなくてもいいんだよ！ 泣きたいときは泣く。笑いたいときは笑う。おこりたいときはおこる。そんなあなたはステキだよ！



仕事で外を歩いているとき、学校帰りの小学校3年生ぐらいの男の子と女の子に出会いました。「おかえりー」と声をかけると、「こんにちは。(仕事を)がんばってください」と返事をしてくれて、仕事のつかれもとぶほど、温かい気持ちになりました。



わたしたちの地いきの子どもたちはいつでもどこでもあいさつができます。大人になっても、このままなおな気持ちをわすれずにいてほしいと思います。





わたしはなら習いごとに行くとき、ごみをひろ拾いながら歩いている10才くらいの2人の人に会いました。とってもえらいな…と思ったし、自分にもできたらいいなとも思いました。もっといいのは拾うごみがなくなること。それがいちばんいいことですね。



祇園祭の山鉾巡行を見に行きました。その日はあいにくの大雨。朝の7時半にとう着しましたが、もうみなさん雨の中じゅんぴや着がえをバタバタしておられました。その中に小学校低学年くらいの顔にけしょうをして着物しょうぞくの子もたちが…。はげしい雨の中、祭りが終わるまでしっかりと歩き、ぜんこく全国からの観客を喜ばせてくれた子どもたちはほんとうにすばらしかったです。



工作が好きな小学校3年生の長男は、夏休みの自由工作で「海ぞく船」を作りました。あせをかいて、何日もかけてがんばった分、できあがった作品がとても愛しいようです。そして…「この海ぞく船は、ぼくの子もや。いっぱいいっしょに遊んで、大事に大事にしよ〜っと」と、作品を見つめて、ささやいていました。もうすぐ3人目を出産予定のわたしに、やさしくひびくわが子の言葉でした。



らみん  
府民ほっとメッセージ(2)

こんなすてきな  
子どもに出会いました



# きょうと ふあんない 京都府案内

なごし 嵯峨菊	府の草花 したれ桜	府の花 北山杉	府の木 オオミズナギドリ	府の鳥 カモナズ
------------	--------------	------------	-----------------	-------------

The map illustrates the following regional specialties and activities:

- Northwest:** かに料理 (Crab), 丹波黒豆 (Danba黑豆), 京たけのこ (Kyoto bamboo shoots).
- West:** 丹波黒豆 (Danba黑豆), 京たけのこ (Kyoto bamboo shoots), 丹波黒豆 (Danba黑豆), 京たけのこ (Kyoto bamboo shoots).
- Central:** 京都府 (Kyoto Prefecture), 京たけのこ (Kyoto bamboo shoots), 丹波黒豆 (Danba黑豆), 京たけのこ (Kyoto bamboo shoots).
- East:** 京野菜 (Kyoto vegetables), かまなす (Eggplant), 丹波黒豆 (Danba黑豆), 京たけのこ (Kyoto bamboo shoots).
- South:** 京たけのこ (Kyoto bamboo shoots), 丹波黒豆 (Danba黑豆), 京たけのこ (Kyoto bamboo shoots).

北  
山城地方の農家

一休寺納豆

二重温泉



## とびらの回へ

あたりまえのことだけど  
世界中をさがしてみても

あなたのかわりはだれもいない  
わたしのかわりもだれもいない

あたりまえのことだけど

あなたもわたしも

家族もみんな

いのちといのちがつながって  
一人一人がここにいて

だからこそみんなで考えよう

「生まれてきてよかった」と

「生きるってすばらしい」と

一人一人の心の中が

あたたかくなる明日を

さあとびらの向こうへ

どんなことにもくじけない

いつも大きなゆめをもち

明日に向かって歩いていこう

## 京の子ども 明日へのとびら【小学校 中学年編】

### ●執筆者

梶田真章  
山本兼一  
河合雅雄  
武田美保  
岡田節人  
西本吉生  
鷺田清一  
佐渡裕  
本庶佑  
松尾心空  
石川九揚  
日高敏隆  
河野昭一

村井康彦  
久木久代  
徳川輝尚  
坪内稔典

### ●挿絵・図版

長谷川容子 ホンマヨウヘイ 村澤良一 よしのぶとこ  
角田正己 山崎牧子 河野修宏 村山ゆかり 倉本恵子  
森田みゆき 吉村一葉 増田ひとみ ホロニック・プロダクト  
植田愛子 永井ひろし みやざきひろかず

### ●写真

河合雅雄 西田利貞 霞田光三  
佐渡裕氏写真撮影：吉村純  
兵庫芸術文化センター管弦楽団撮影：飯島隆  
PANA 神泉苑

発行日 平成28年3月31日

発行 京都府教育委員会

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入

© KYOTO PREFECTURAL BOARD OF EDUCATION 2007



この印刷機は植物性インクで印刷しています。

3年組	
4年組	